

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800914		
法人名	医療法人荒瀬会		
事業所名	グループホーム年輪		
所在地	上益城郡甲佐町緑町359-9		
自己評価作成日	平成28年10月30日	評価結果市町村受理日	平成29年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何より施設の理念にあるように御利用者と共に寄り添い、明るく家庭的な施設であることを目標とし、御利用者の方々が心身ともに現在の状態が維持できるように、バランスの摂れた食事の提供と、適切な運動等を取り入れることで日中の活動量を増やし、夜間十分な睡眠がとれるように心がけている。その際、職員同士のケアにムラが無いように統一を図っている。また、急変時、災害時には直ぐ対応ができる様に医療や家族、そして地域との連携がとれるように連絡を密にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は震災のなかで管理者及びケアマネジャー変更という過度期の中で新管理者を中心にコミュニケーションを強化し、外出支援やアクティビティの他、モップでの掃除等役割のある生活が生きる喜びとして生かされている。最高齢100歳という中で、理念である寄り添う姿勢が具体的に表れている。例として、帰りたいとの思いに応え、廊下にはバス停を作りバスを待ってもらう等全職員での工夫したケアの成果が落ち着いた生活に繋げている。運営推進会議も充実しており、この会議の中に防災訓練を毎年組み入れていたことが功を奏し、災害時には宿直も置く等ホーム運営にこの会議をうまく活用している。隣接する母体病院等の存在は、入居者・家族、職員の安心感となり、職員も“入居者に信頼してもらうことを念頭に、持てる力を発揮したい”と前向きなケア姿勢に感銘を覚える。今後も理念である“明るい家庭的なホーム”であることに大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念を周知徹底できる様に朝礼時等に皆で唱和している。 見直しも考えているが、地震等の混乱もあり現在も検討中である	開設時からの理念を継続し、唱和や掲示により意識付けとしているが、現状に即した理念とすべく見直しを検討している。入居者の入替が進み、明るい家庭的且つ活動的なグループホーム本来の姿となってきている。この日常生活が理念の実践であり、地域との関係性等理念に即した目標を立てることもよいと思われる。	更に地域密着型事業所としての姿勢や理念を深く掘り下げた話し合い等によりケアサービスに直結いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の隣保班には参加している。花植え等職員が地域と関わっている。保育園児、ボランティアの方の慰問により交流を継続させている。	回覧板により地域情報をリサーチし、花植えや隣接のデイサービスでのボランティアや保育園児との交流等世代間交流を継続している。また、地域の敬老会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会等参加して地域の方とコミュニケーションをとり年輪のことを知って頂くと共に協力を得られるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回開催している。行政・地域・家族代表の方を交えながら入居者様の様子が少しでも伝わるように努めている	定期的に行っている運営推進会議は、年度初めには防火・消防訓練を組み入れる等課題を提示し、各委員の立場からの意見交換が行われている。ホーム側も車と通りが多いという立地からの要望等問題を提示できる有効的な会議である。この会議の中で災害時夜間体制についての意見交換により宿直1名として2名勤務としている。	充実した会議であり、更には会議当日に参加できない職員にも情報を開示し、共有化を図ることでサービスに生かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のみで課題が残るものである。	介護認定調査更新や認定結果を頂きに窓口に出向き、運営推進会議参加時に空き状況を発信しているが、行政とのかかわりを課題として捉えている。	今回の外部評価結果報告書を持ち届け、情報交換を行う等更なる行政との関係作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の意味する範囲については月1回の勉強会でスタッフの統一を図っているが、まだまだ学習が必要。玄関の施錠は開放している。	身体拘束廃止に向け、繰り返しの言葉への対応等勉強会の中で話し合いを行っている。入居者個々の帰宅願望や外出傾向を把握し、ホーム内にバス停を作る等工夫しながら束縛の無いケアに徹している。	入居者の繰り返しの言葉や訴えに対するケアに真摯に取り組まれているが、ケア統一に向け検討が必要であると認識されている。職員同士が注意喚起できる環境とされることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての学習はまだまだ不十分な所もあり、今後継続して学習する必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援・成年後見制度についての研修の機会がない為、内容についての理解は十分ではない。今後学ぶ機会を作っていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営規定及びリスクの内容について説明を行い同意を頂いているまた、不安や疑問等ある場合は来苑時や電話で対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族と対話を持ち意見を頂いている。意見箱を活用して頂く様に説明をしている。	利用料を持ち届けとすることで毎月の訪問を促し、担当職員による報告書を手渡し、家族の意見や要望を引き出している。また、ご汁会の開催は家族との交流の場として生かされている。家族からの意見や要望等記録としては残していないが、職員間で共有している。家族等の意見等声を運営に生かすよう玄関先に意見箱を設置している。	家族からは良い意見も出されており、良し悪しに関わらず記録に残すことを検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員によるケア会議を開催し意見、要望を述べてもらう。そして、変更が必要な場合は速やかに対応できるように心がけている	この4月管理者及び介護計画担当者の変更という職員体制の変更に伴い、管理者は職員とのコミュニケーションを強化している。朝礼時や毎月の勉強会時等意見や要望等を出す機会も多く、法人内での事務長会議での情報交換や看護師長によるバイタルチェックや状態確認等も行われている。職員のストレスケアにも全職員で検討していきたいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等、職員が行きたい研修に行かせていただきスキルアップを目指している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員がケアの統一ができるよう検証、実践しスキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にもう一つグループホームがあり情報交換を行なっている。GH上益城支部会に参加し意見交換を行い向上を目指している		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の話を傾聴し穏やかな雰囲気作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、説明を行ない要望を受け止め双方で意見を交換し家族が話しやすい環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、サービス計画担当者、家族(利用者様含む)で聞き取りを行いもれのない支援を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様一人一人に合う自立支援のもと、状況を見て必要以上の介助にならないように努めると共に、会話を多く取り入れ家族的な雰囲気を楽しみながらも個々を尊重するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を利用しご本人様の様子を伝え、要望を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーでの買い物などホーム外へ出かける機会を作っていたが、最近災害等の影響で外出の機会が減っているのが現状である。	初詣や買物(スーパー)に出かけ顔見知りとの立ち話、誕生会に家族との外食、法要参列、100歳のお祝いに町長他家族全員でのお祝い等家族が中心となっているが、これまでの関係性の継続に努めている。	区長からどんどや・土竜打ち等行事へ招待されており、出来る限りの支援に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様の個性を大切にしながら集団での生活を過ごして頂いている。 利用者間でのトラブルが起こる事も有るがお互いの訴えを聞きながら関係の修復を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着の為、退所されたご家族と会うこともありそのたび現在の様子を聞いたりしながら相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のメンバーが代わり以前より自分の意見や希望を言われるようになったが、中には表現できない方もおられるため、職員が日常の暮らしの中で思いを掴む努力をしている。	職員は入居者との日々の関りの中で希望等を収集し、ケアサービスに反映させている。食事の味付けやご飯の硬さ等直接の申し出もあるが、意思疎通・発語困難、視野欠損な中でも、笑顔をバロメーターとして推察しながらケアに具体的に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書、看護サマリー家族や知人などから情報収集に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが日々の生活支援通して変化や状態を観察し申し送り等で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員との話し合い、状態が変化した場合は計画の見直しを行なっている	毎月のケアカンファレンスとともに半年毎のモニタリングをもとに再作成している。担当者会議は開催せず、家族の訪問時に意見等を聞き取りしている。心身の状態変化にサービス内容の修正等具体的で詳細なプランが作成されている。	毎月ケアカンファレンスが行われており、職員の気づきや観察の結果を踏まえ、職員及び家族にもわかりやすい実現可能なプラン作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容はまだ不十分な点もある。記録の必要性や仕方について更に学んでいきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに発生するニーズに対し出来る事、出来ない事があるので皆で検討し対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、町の福祉関係者の方々と意見交換を行いながらご本人が喜ばれ、生き生きとなれる状態や機会を作れるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師や看護師と情報を共有し、連携を密にすることで状態を把握し急な変化に対応できる様にしている	もともとのかかりつけを母体病院とする入居者がほとんどであり、母体病院での受診となっている。これまでは家族による耳鼻科での受診支援も行われていたが、家族の年齢も考慮しホームで受診を支援している。緊急時、異常等随時相談や受診判断等連携し、看護師長による様子確認等法人一体となって適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも変化に気付いた際には看護師や訪問看護師等に相談して受診の必要性等の判断を仰ぎ対応するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供、退院時にはサマリーにて情報交換を行い、日頃から病院関係者との連絡・相談を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に入られた場合の対応については入所時に意見・希望を確認している	重度化・終末期等入居時の説明と共に、心身の状態変化に伴い家族と相談し今後の対策を講じている。訪問看護を利用した事例もあり、法人と連携しながら高齢化する入居者を支えている。	リスクについての説明を行われているが、最高齢100歳ともなると今後のことを家族と相談しておくことは必要であり、段階を踏んで話し合いを進めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で対応を学んでいるが、全ての職員の実践力については今後重ねて訓練の必要がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回避難訓練を実施しており、内1回は必ず区長・町職員・消防団に参加していただいている。そして改善すべき点があれば指導していただいている。今後は夜間を想定した訓練も必要と思われる	自主訓練の他、運営推進会議を利用した避難誘導訓練や自然災害(大雪・大雨・地震等)を想定し討議している。地震時等災害時には宿直1名を増員し、消防や隣接施設との連携した取り組みによる有事に備えている。	昨今は予測不能な自然災害が発生しており、夜間想定訓練の必要性は認識されており、あらゆる災害を想定した訓練を行われることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者によっては認知が進んだり、体力が低下することにより声掛けしても行動にいたることが難しくなっているが、個人の誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている	入居者個々の状況に応じた呼称や、その時々に合わせて声掛け等誇りやその場の雰囲気壊さないようさりげないケアに努めている。また、個人情報漏れることがないように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方もおられるため、行動や表情を観察しながらそれぞれにあった自立支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず個々のペースで食事や行動を行なっていただいているが、すべてが自由に出来るまでには至っていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は朝、職員が声掛けをしながら行っている。また、衣類も出来る限り本人の好みで着用して頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士作成の献立表に沿って提供している。また、希望があれば出来る範囲で好みの食事も提供している。出来る範囲で茶碗拭き等の手伝いをしていただいている。	併設の栄養士による献立を基にホームで調理しており、入居者も食材の買い出しと一緒に掛けたり、台拭きや茶わん拭き等できる事に取り組まれている。職員は介助中心であり、共に食事をする事は無い。職員の一人でも一緒に食事ができないかを検討いただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューを元に料理を作り食べて頂いている。また、毎食の摂取量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力で可能な方は歯磨きの声掛けを行なっている。介助が必要な方は職員と一緒に口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを認識し、出来るだけ自然排泄ができる様に支援している。	自分のペースでの排泄の他、排泄チェックによりパターンを把握し、定時誘導により失敗の無い排泄等自立に向け支援している。排泄用品も布パンツやリハビリパンツ、おむつ等個々の状況に合わせて使い分けを行い、適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩で体を動かすようにし水分補給や乳製品の摂取を試みて、排便がない場合は医師の診察により下剤を処方、服用して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一通り順番に沿って案内しているが、体調の変化や汚染等の状況等を考慮し柔軟に対応している。また、入浴が困難な場合には必要に応じて清拭等を行なっている。	個々の状態に合わせた入浴を支援している。バイタルチェックにより入浴の可否を見極め、心身の状況により清拭を行うこともある。また、温泉施設での足湯に出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調を見ながら出来る限り活動されるように促がし、夜間十分な睡眠が取れるよう心がけている。それでも中々寝つけない場合はお茶を出したり会話をするなどして自然と眠れるような環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確認できるように服薬のファイルを作成しており、目的・用法・用量・副作用等解らない時に活用している。薬は全て施設にて管理しており、きちんと服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯たたみ、モップ拭きなどそれぞれに合った役割を見つけて取り組んでいただく。また、行事や苑外活動を取り入れ心身の活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的に苑外行事を組み気分転換を行なうようにしている。地震・大雨等の影響もあり、短い間ではあるが、近くの温泉へ足浴と買い物に一度出かけている。	災害により外出は減少気味ではあるが、気分転換のために散歩に出かけたり、温泉施設での足湯、家族との受診時の外出等家族の協力を受けながら支援している。	季節によっては(暖かい日や時期)、外出を支援いただきたい。まだまだ周囲は危険箇所もありえることも踏まえ、外出を計画されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者がいないため、家族からの希望により職員が入居者様に必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は職員がついて介助し内容の伝達を行なっている。手紙に関しては家族の協力も必要となり、実現には至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体が縦長で、全ての空間が一直線上に解りやすく並んでいる。	玄関先には家族が持ち届たけ生花を、入居者が活け作品として飾る等アセスメントでの情報が活かされている。直線的な建物を工夫し、塗り絵や写真などの掲示や、天候に応じた空調管理の徹底等快適な生活空間である。狭小空間の利点である台所での調理の様子や匂い、音等を感じられるとともに、職員の見守りには適切な環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間が入居者様のコミュニティ空間になっている。一人で過ごせる空間は居室にしかないがソファを点在しており以前に比べるとゆっくりとテレビ等を楽しめるようになっている。それでもまだまだ課題は残る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や小物を配置し住み心地の良い部屋づくりに務めている。	和の趣きを残した居室(障子のある部屋)は、押し入れや洗面台が設けられており、整理整頓や掃除が行き届いている。家族写真や愛用品、テレビ等が持ち込まれ、昼食後は自分の部屋で休息される方等自分の部屋として認識されており、居心地のよい居室環境にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差が無いため老人車での歩行も可能である。手すりについては居室入り口や廊下の腰掛があり続いていない部分があり、連続して使用できないという欠点がある。		